

DVD 紹介

ポンペイ (POMPEII)

監督 / 制作：ポール・W・S・アンダーソン

脚本：ジャネット・スコット・バチェラー，リー・バチェラー

撮影：グレン・マクファーソン

2014年12月2日 DVD & Blu-ray リリース
本編 105分
発売・販売元：ギャガ
Blu-ray 版 (GABS - 1019) : 4,800円 + 税
DVD 版 (GADS - 1018) : 3,800円 + 税

私は業務で自然災害や防災教育に取り組んでいることもあり、プライベートで時間がある時には、ディザスター（自然災害）映画のレンタルDVDを好んで見ている。2014年夏にハリウッド映画“ポンペイ”が劇場で公開された。この映画は、“バイオハザード”などで知られるポール・W・S・アンダーソンが6年もの歳月を費やして、歴史上に名を残すヴェスヴィオ火山の噴火災害を大胆に映像化してみせた渾身のディザスター映画と事前に賞されていた。この映画のBlu-ray & DVD販売とレンタル開始（2014年12月2日）を知って、一寸見てみようと思われレンタルショップで借りて鑑賞させて頂いた。

映画の舞台となっているイタリアのポンペイは、人口1万人ほどが住むナポリ湾を望む美しい古代都市であり、当時貿易商人が多く住む豊かな街であつたらしい。また温泉が豊富に湧出することから、ローマ人の保養地であつたとされる。我が国に例えるならば南九州の鹿児島市や道南の森町のようなセッティングと言えよう。日本では弥生時代後期にあたる西暦79年8月24日に、街に近接するヴェスヴィオ火山において大規模なプリニー式噴火が起こった。この時発生した大規模火砕流にポンペイの街ごと飲み込まれ埋没したことが歴史적으로よく知られており、その遺跡は1997年に世界遺産に登録されている。

105分間とやや短めの映画ではあるが、前半と後半では大きく内容が異なる。前半は、主人公であるマイロのロー

マ人への復讐と有力者の娘との身分違いの恋を中心に描かれる。しかし作品の中心はあくまで後半のヴェスヴィオ火山の大噴火の描写にあり、前半の物語は噴火を描くための前段と言っても過言ではない。

ケルト騎馬民族唯一の生き残りマイロは、両親を殺したローマ人への復讐を誓いグラディエーターとして成長する。ブリタニアの小さなコロシムから買われたマイロは、ポンペイへ移送される道中、ポンペイの富豪の娘カッシアと出会う。身分違いながらも惹かれ合う2人だが、カッシアを追ってローマからやってきた元老院議員のボルグスが強引にカッシアへ求婚を迫る。このボルグスこそマイロの両親の仇でもあつた。身分違いの男女の恋、敵討ち、グラディエーター同士の友情といったところは、よくあるシナリオでもある。ベスピオス火山の噴火により崩壊していくポンペイのなかで、予想できてはいたものの、結末はハッピーエンドとは成らず悲しいものであつた。そういった過酷な状況下で、もしかしたら、こんなラブストーリーもあつたかもしれない・・・というアンダーソン監督の演出が、ディザスター映画版「タイタニック」とも言える脚本を生み出したのであろう。

一方、プロの研究者から見て、この映画の火山学的考証は実にちゃんとしていて、噴火の前に強い地震（火山性地震か？）があり、それからプリニー式噴火が始まる。街を焼け尽くすミサイルのような火山弾の飛来、津波の港への

襲来と街の浸水（この津波の成因は、岩屑なだれか火砕流がナポリ湾に流入して生じたと想像されるが？）、最後に大規模火砕流およびその末端の火砕サージ？がポンペイの街を覆い尽くす映像はダイナミックでたいへん素晴らしいが、火砕流が出た瞬間に山頂火口がカルデラ陥没しているようにも見える点については、再検討が必要であろう。

そびえ立つヴェスヴィオ火山から上空30 kmにも達する巨大な噴煙柱が立ち昇り、街のすべてを飲み込む地獄絵図のような描写に最新VFXのCGが冴え渡る。最も恐怖を煽るのは、噴煙が太陽光を遮断するカットであり、この演出は見るものに恐怖を与える。このような大迫力の最先端VFXで描かれる火山災害のCG画像が、この映画の最大の見所と言える。この迫力のあるサウンドと3D画像は自宅のパソコンやテレビ鑑賞程度では十分とは言えず劇場の大型スクリーンで体感できればと思うが、今更劇場でのリバイバル上映は難しい話であろう。

ところで、この時の火山噴火で発生した火砕流の速度は時速100 km以上に達し、ポンペイ市民は映画のラストシーンに描写されるように、降り積もった降下軽石に足下をとられて逃げきることはできず、そのまま生き埋めになったとされる。後に発掘されたときには、遺体部分だけが朽

ち果てて火山灰の層の中に空洞ができ、イタリアの考古学者たちはここに石膏を流し込み、逃げまどうポンペイ市民が死んだときの姿を再現したのだそうだ。ちなみに、とある火山学の教科書によれば、“プリニー”式の名の由来は、古代ローマの博物学者ガイウス・プリニウス・セクンドゥスにあるとされる。上述した西暦79年のヴェスヴィオ火山噴火に遭遇したプリニウスは、噴火の記載をポンペイでしていたが、最後は火山ガスや火山灰を吸い込み呼吸困難に陥り殉職したらしい。彼の学術的な功績が後世に伝えられ、その後は“プリニー”式噴火と呼ばれるようになったという。2014年9月27日に、御嶽火山での噴火災害を経験したばかりの我々日本人にとっては、純粋な娯楽作として楽しめないのが些か残念ではあるが、このような見事なCG映像を、活火山周辺で居住する小中高生や一般市民に見て頂くだけでも、平素の火山防災教育として十分効果があると私は考えている。

なお、活断層・火山研究部門の石塚吉浩氏と古川竜太氏には、粗稿をご校閲頂き、火山学的見地から記載の不備な点をご指摘いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げます。
(産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門 七山 太)